

令和4年度版

動物通信

歯の病気と管理

～健康な歯を維持するために～



はじめに	1
1 歯の種類と成長	3
2 歯の病気と治療 ^{ちりょう}	7
3 歯の健康管理	11
おわりに	14

令和4年12月
杉並区

はじめに

動物は各々が^{おのおの}食べる物に合わせて、^{どくじ}独自に^{しんか}進化してきました。例えば、肉を^か噛み切る歯をもった肉食動物や、伸び続けて^{かた}硬い草を食べられる歯をもつ草食動物、草食動物なのに戦うための大きな^{きば}牙を持つラクダ、抜けてもいいようたくさん生えているサメや^{くしじょう}歯を櫛状にしたクジラもいます。

このように、動物たちは「食べる」ために長い間、進化してきました。「食べる」ことは、動物が生きるうえで大変重要な行為であり、歯は「食べる」という行為において、なくてはならないものです。

歯が悪くなると、痛くて好きなものが食べられなくなったり、十分な栄養を^{せつじゆ}摂取することができなくなったりします。また、口以外の体全体にも悪い^{えいきょう}影響を及ぼして、健康を^{いじ}維持できなくなってしまう。そのため、体の健康を^{たも}保つためには歯も健康でなければなりません。

同様に、ご家庭の動物たちにとっても、歯の健康は大切です。高齢になり、悪い歯が増えると、好き^{きら}嫌いが激しくなったり、うまく食べられずに^や痩せてしまったりしてしまいます。高齢になっても歯が丈夫でたくさん食べられるように、飼い主が^{はみが}歯磨きなどの日常ケアを続けることが必要です。



ホンソメワケベラという魚がいます。他の魚の口の中に入り込み、^{きせいちゅう}寄生虫を食べて口の中の^{そうじ}掃除をします。その間、魚はじっと動かず、ベラを受け入れています。この魚のように、動物がじつと我慢できたら、歯磨きも早く終わって、動物も健康に過ごせるのですが、動物に歯磨きに慣れてもらうには大変な時間と^{ろうりょく}労力が必要です。

1 歯の種類と成長

<歯の種類>

歯は、魚類、両生類、は虫類、哺乳類がもっている、物を食べるための大切な消化器官の一つです。歯は、その生えている場所と形によって、働きが違います。歯の本数は動物によって異なります。

①切歯と門歯

顎の前面、口の中で歯列の中央に生えている歯です。動物によって切歯とも門歯とも言われます。食べ物をくわえたり、挟んでかみちぎったりします。

牛、羊、鹿、キリンなど反芻動物と呼ばれる草食動物は、上顎の門歯が退化したかわりに歯肉が硬く変化した歯板という構造になっています。ウサギは、切歯のすぐ後ろに重なるように小さい切歯が生えているという特徴があります。

ちなみに、象の牙やイッカクの角は、切歯が大きく発達したものです。

②犬歯

切歯の隣（奥）にある歯です。大きくとがった犬歯は、食べ物を捕まえたり、敵と戦ったりする時の武器として使います。

肉食動物の犬歯は発達しています。草食動物では、犬歯をもつ動物と、もたない動物がいます。馬は雄だけに犬歯があります。

③ 臼歯^{きゅうし}

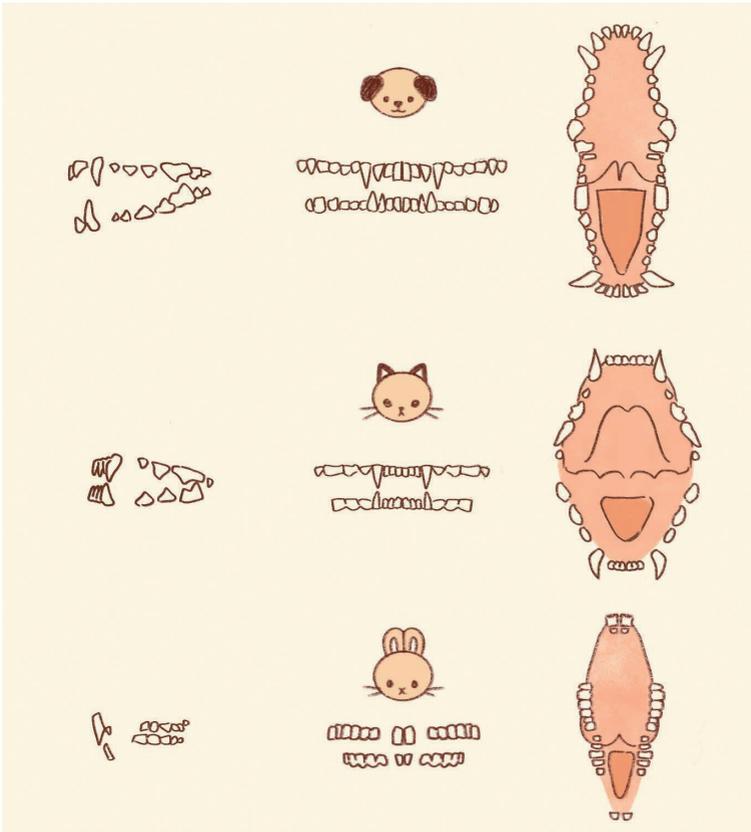
口の中で切歯と犬歯より奥に生えている歯です。臼歯の生えている場所と形、働きによって、前臼歯と後臼歯に分類されます。

肉食動物は、尖^{とが}った部分を持つ山や、ハサミの刃のような形をしていて、はさみのように動かして、食べ物を砕^{くだ}いたり、小さく切ったりします。草食動物は、四角に近い臼^{うす}のような形をしていて、食べ物をすりつぶします。雑食動物の歯は、切るのもすりつぶすのも両方の役割ができるようになっています。

<動物の本数と歯式^{ししき}>

動物の、各種の歯の本数を表したものが歯式です。歯式は、上顎の歯の本数 / 下顎の歯の本数であらわします。左右は同じ本数なので、下の表の数字を2倍した数が総歯数です。

	切歯	犬歯	前臼歯	後臼歯	総歯数
人	2/2	1/1	2/2	3/3	32
犬	3/3	1/1	4/4	2/3	42
猫	3/3	1/1	3/2	1/1	30
ウサギ	2/1	0/0	3/2	3/3	28
モルモット	1/1	0/0	1/1	3/3	20
フェレット	3/3	1/1	3/3	1/2	34
馬 (雄)	3/3	1/1	3 ~ 4/3	3/3	40
(雌)	3/3	0/0	3 ~ 4/3	3/3	36
反芻動物	0/4	0/0	3/3	3/3	32
ブタ	3/3	1/1	4/4	3/3	44



<歯の成長と交換>

歯は、動物によって生え変わる回数も生え方も異^{こと}なります。

- ・一生に一度しか生えない動物：ラット・ナマケモノなど
- ・乳^{にゅうし}歯から永^{えい}久^{きゅう}歯へ1回生え変わる動物：人、犬、猫、ウサギ
フェレットなど
- ・一生のうちに何回も生え変わる動物：魚^{ぎょるい}類、両^{りょうせい}生^{せい}類、爬^{はちゅう}虫^{るい}類
ちなみに象の臼^{うす}歯は、一生のうちに6回生え変わります。

一生伸び続ける歯を常生歯^{じょうせいし}と呼びます。

常生歯は、食べ物を咀嚼^{そしゃく}することですり減るため、基本的には伸び続ける性質^{せいしつ}があります。

常生歯を持つ動物の例

- ・ウサギ・チンチラ・モルモット：切歯と臼歯
- ・マウス・ラット・ハムスター：切歯
- ・象：牙（切歯）

・犬と猫の歯の成長

犬と猫の乳歯^{にゅうし}は生まれてから約3週間で生え始めます。永久歯は、個体差^{こたいさ}はありますが、犬は生後約5か月、猫は約4.5か月で生えてきます。

乳歯から永久歯への交換は、人のように乳歯が抜けた後に永久歯が生えるのではなく、乳歯の横から永久歯が生えてくると共に乳歯の歯根^{しこん}が徐々に吸収^{じょじょ きゅうしゅう}されて抜け落ちます。つまり数日間は、乳歯と永久歯が共存^{きょうぞん}する時期が見られます。

交換する順番は、切歯→前臼歯→後臼歯→犬歯であり、どの歯も下→上の順番です。

フェレットは犬や猫と同様^{どうよう}ですが、時期は生後約1.5か月から2.5か月で生え変わります。

・ウサギの歯の成長

ウサギはお母さんのお腹の中で乳歯が生え、切歯は永久歯に生え変わっています。臼歯は生後1か月以内に永久歯に変わります。

2 歯の病気と治療^{ちりょう}

①犬・猫の歯の病気

デンタルケアは昔に比べて関心をもたれるようになってきましたが、3歳以上の犬・猫の約80%以上が歯周病^{ししゅうびょう}であるといわれています。実際に私たち獣医師が日常の診療^{じゅういし しんりょう}でみる口腔内の病気の多くが歯周病です。歯周病を中心に犬・猫の口腔内の病気を紹介していきます。

歯周病

歯周病とは歯垢中の細菌が原因となって歯と歯茎から炎症がはじまる病気です。一般的に歯垢・歯石（歯垢がカルシウムやリンと結合して固くなったもの）が多く付着するほど歯周病が進行し、歯と歯茎の間が炎症を起こしてできる溝（歯周ポケット）が深くなります。

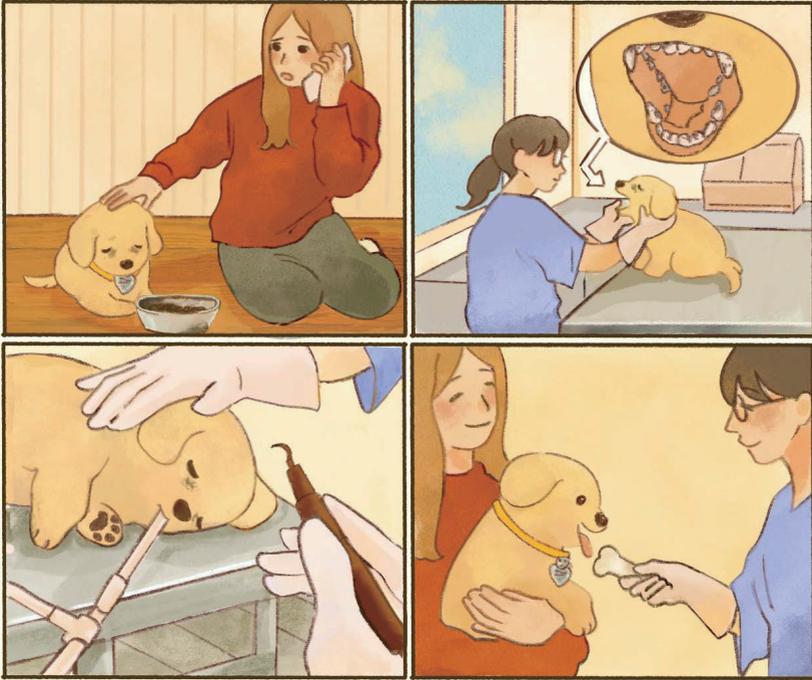
軽度歯周病（歯肉炎）^{けいど}：初期は自覚症状^{じかくしょうじょう}がありません。歯垢や歯石により炎症が起こり、歯茎が腫^はれてきます。

中程度歯周病：炎症により口臭^{こうしゅう}がひどくなります。歯周ポケットができてきます。

重度歯周病：歯周ポケットがさらに深くなり、歯がグラグラしてくることがあります。

治療^{ちりょう}

スケーリング（歯の表面に付着した歯垢や歯石を、器具を用いて除去^{じょきょ}する処置^{しよち}）を行います。また、場合により抜歯^{ばっし}を行います。動物のスケーリングや抜歯は通常、全身麻酔^{ますい}を用いて行います。



予防

歯周病予防にはデンタルケアが欠かせません。歯ブラシを用いた歯磨きが一番良い歯周病予防になります。

歯周病に起因した病気

こうくうびくう 口腔鼻腔ろう

歯周病の進行により歯の根元から^{うわあご}上顎を溶かし、鼻の^{ねんまく}粘膜と口がつながってしまう状態の病気です。くしゃみや^{うみじょう}膿状の鼻水などが出てきます。原因の歯を抜歯し、治療を行います。

歯ろう

歯の根元の感染により周囲の組織が破壊され、皮膚や口腔粘膜に穴を形成させる病気です。

原因の歯を治療することにより良好になります。

顎骨骨折

重度の歯周病により、顎の骨が吸収され、骨が非常に薄くなり、骨折を引き起こします。

歯周病を起こしている歯を抜去し、骨折に対して治療していきます。

次に、歯周病以外の口腔内の病気について説明します。

虫歯（う蝕）

ヒトでは多い病気ですが、犬や猫では虫歯の発生は少ないです。虫歯にかかっている犬や猫は通常、痛みを示しません。進行した状態になると、噛む行為を避けるようになり、食欲が低下してきます。治療は軽度の場合、虫歯の箇所を削り、歯髄を保護する処置を行います。重度の虫歯の場合、抜歯を行う可能性があります。予防は定期的な口腔内の視診と歯磨きになります。

破折

歯が折れたり、割れたりする状態のことです。犬・猫ではよくみられる症状です。ヒトでは外傷や病的なものが原因となりますが、犬や猫では原因不明なことが多いです。固いデンタルガムでも破折する場合があります。

治療は破折の状況により異なります。歯髄を抜去し修復する方法や抜歯が必要になる場合もあります。

腫瘍

口腔内の腫瘍は比較的多くみられる病気です。診断および治療はCTやMRIなどで確認してから行うことが多いです。通常、外科手術による摘出が多いですが、場合により放射線治療を組み合わせることも近年多くなってきています。

②犬猫以外の動物

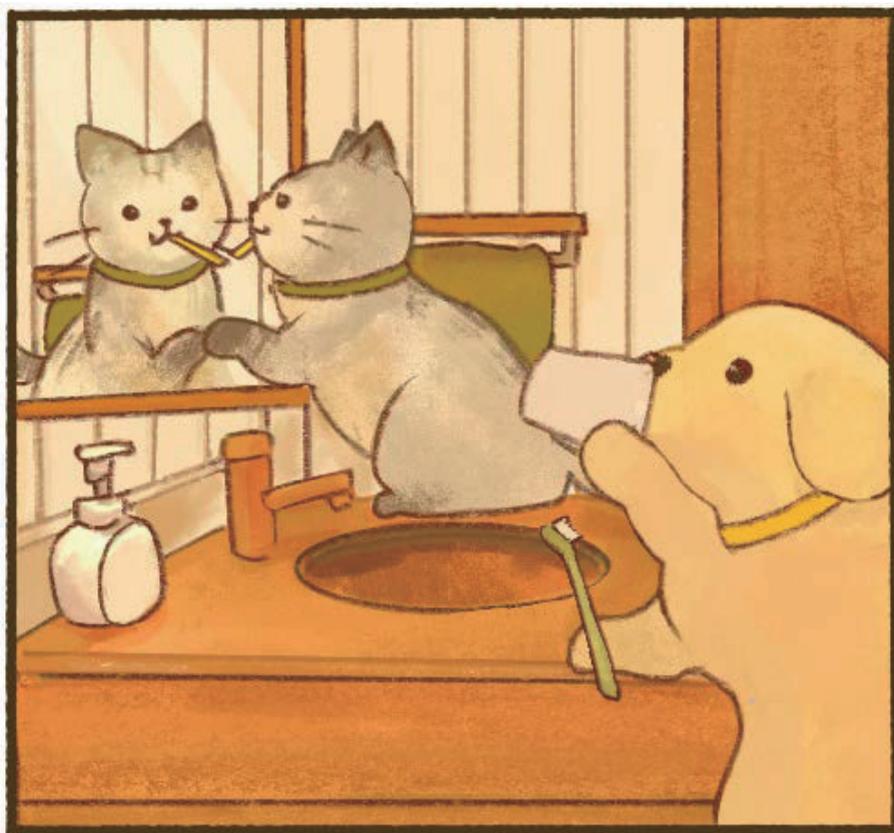
ウサギ・モルモットは前歯も奥歯も常に歯が伸び続ける常生歯です。歯と歯、あるいは歯と食べ物（牧草）が噛み合うことによりおこる摩擦で、正常な歯の状態を保っています。このため歯に関係する病気は多く、その中でも不正咬合が特に多い疾患です。

不正咬合

不正咬合とは、歯のかみ合わせが合わなくなる病気です。ケージの柵など固いものを噛んで前歯が折れてしまったり、食餌による歯の咬耗不足（牧草の不足）や遺伝などが原因で奥歯の不正咬合が発生します。不正咬合が起こると、食欲が落ちてきたり、よだれが出たり、伸びてきた歯が口腔粘膜や舌に当たり、出血することもあります。

診断は口腔内の視診やレントゲン検査などで確認します。伸びた歯を短く削る処置をして治療します。

3 歯の健康管理



犬と猫にとって毎日の食事はとっても幸せな時間です。ペットフードを美味しく食べるためには健康な歯が必要になります。

歯に虫歯ができたり^{ししゅうびょう}歯周病になったりすると痛くてご飯をおいしく食べられなくなってしまいます。さらに、病気が進むとご飯が食べられなくなって^や痩せてしまうこともあります。

その他、おもちゃで遊んだり歯磨きガムを食べたりする際にも、歯は重要な役割を担っているため、歯が痛い^やと遊ぶことも少なくなり、楽しんでガムを噛むこともできなくなってしまいます。そのため、飼い主にはペットの歯の健康を守るために、日頃から口の中に異常がないか目で見ると、^{こうしゅう}口臭が^{にお}無いか^か臭いを嗅ぐ事が重要です。

もし歯ぐきが赤く^{えんしょう}炎症を起こし出血しているなど異常が認められた場合には、動物病院で診察を受けなければいけません。

口の中で特に多い病気は歯周病です。年を取ると多くのペットで見られる病気ですので、若いころから歯磨きをして予防することが大切です。これは人と同じで“予防歯科”と言われる考え方で、歯は一度悪くなってしまうともう元には戻りません。普段から歯磨きを毎日行い、定期的に歯の健康を獣医さんに確認してもらい、悪くなっている様子が少しでも認められたら早めに治療を受けさせることが重要です。

犬と猫はどちらも^{ほにゅうるい}哺乳類の食肉目に分類される肉食動物で、肉を^さ裂くための^{れつにくは}裂肉歯という特徴的な歯を持つ動物です。狩りをするために歯はとても重要な役割を持っていて、^{けんし}犬歯で^{しと}獲物を仕留めて奥歯でその肉を^か噛み切って食べていました。

このように歯をよく使って生活をしていたため、歯磨きをしなくても汚れが溜まりにくい環境がありました。しかし、家庭で飼われている現在では、犬と猫はペットフードという一粒ずつ飲み込める大きさのご飯を食べているため、昔より歯を使う機会が少なくなっています。このことから歯磨きをしないと歯周病になるペットが多く認められるようになってきました。

歯磨きの方法には歯磨きシートや歯ブラシにデンタルジェルを付けて磨く方法が一般的です。子犬や子猫の頃からしつけと同じように歯磨きに慣らすことが大切です。最初は口を触ることに慣れさせることから始めます。終わった後にはたくさん褒めておやつをあげると“歯磨き”＝“良いこと”というプラスのイメージになります。毎日少しずつ練習していく必要がありますが、根気よく続けていくことで最終的には人と同じように大人しく、最後まで歯磨きができるようになります。ペットとの歯磨きはリーダーシップを得ることができるだけでなく、コミュニケーションをたくさん取りながら練習をすることになるため、信頼関係を築くこともできるようになります。

現在ではペットフードが良質なものになり、獣医療が進歩し今や犬の平均寿命は14～15歳、猫の平均寿命は15～16歳と言われるくらい長寿化しています。高齢になった時にもおいしく食事ができるように毎日頑張って歯磨きをして、歯の健康を保つように努めましょう。

おわりに



ペットが食べ物を勢いよく完食してくれたら、飼い主は嬉しく思うことでしょう。この姿を守るためには、歯のケアが大切です。しかし、歯磨きを受け入れてもらえず十分なケアができない場合も多々あると思います。そして、高齢になって歯が悪くなると、食べ物が食べられず、^や瘦せていくかもしれません。

健康を維持するには、歯のケアを^{あきら}諦めずに続けることが^{かんじん}肝心ですが、毎日の作業は大変な労力です。この本が参考になり、歯の健康維持の手助けとなれば幸いです。

あとがき

この動物通信は、毎年、杉並区獣医師会が書いているもので、動物に関する様々な題材を取り上げています。過去に発行された動物通信は、杉並区獣医師会ホームページで見ることができます。

杉並区民の方々の、動物の飼育の手助けになれば幸いです。

編集

公益社団法人 東京都獣医師会杉並支部

ホームページ

(URL) <https://www.s-vet.com>

(イラスト協力)

女子美術大学芸術学部

アート・デザイン表現学科

ヒーリング表現領域 常木 実理

獣医師会会員 動物病院案内 (町名順)

川口動物病院	阿佐谷北 2-9-9	3339-4343
阿佐谷ベッククリニック	阿佐谷北 4-1-2	3330-3020
グリム動物病院	阿佐谷南 3-5-1	3393-2624
ちやふるベッククリニック	天沼 3-23-34	6240-6377
たかぎ動物病院	井草 1-35-4	5382-1233
いぐさ動物病院	井草 1-31-16	3397-7115
ひがしやま動物病院	和泉 2-33-22	3322-8338
さくら動物病院	今川 4-20-11-1F	3301-7800
ハナ動物病院	梅里 2-28-4梅里MSビル1階	5913-8241
パル動物病院	永福 3-51-13	5376-5344
永福あにまるクリニック	永福 4-22-6-1B	5329-1255
天野動物病院	大宮 1-2-3	3325-6798
ガラス動物病院	荻窪 5-4-9	3220-2717
米川動物病院	荻窪 3-12-5	3398-1141
K's どうぶつ病院	上井草 3-1-19	3395-1947
荻窪ツイン動物病院	上荻 1-23-18	3220-1122
もりぞう動物病院	上荻 2-21-25-1F	6915-0035
エルムス動物医療センター	上高井戸 1-14-4	3304-4090
ダクタリ動物病院 久我山	久我山 3-7-27	3334-3536
久我山動物病院	久我山 5-33-20	3331-0960
オハナ動物病院	高円寺北 3-23-6	5364-0203
高円寺アニマルクリニック	高円寺南 2-14-14	3311-1014
小金井動物病院	下井草 3-32-10	3390-8794
広瀬獣医科病院	下井草 2-4-10	3394-0116
鈴木動物クリニック	善福寺 2-30-5	5382-8707
浜田山かじわら動物病院	高井戸東 3-1-25	3290-1239
しんどうぶつびょういん	高井戸東 4-9-1	5336-3721
ミ・サ・キ・動物病院	高井戸東 2-25-8	5370-1013
成田犬猫病院	成田東 3-2-3	3315-5300
小張獣医科病院	西荻北 2-13-3	3390-6025
ブルーミントン動物病院	西荻南 2-22-11	5941-9711
マスマガ動物病院	浜田山 4-11-12	5378-1014
東京動物医療センター	松庵 2-19-15	3331-3381
塩田動物病院	南荻窪 1-21-2 都コーポ	3332-2310
なかむらベッククリニック	南荻窪 4-22-6-1F	5370-6070
みやまえ動物病院	宮前 3-9-1	5344-1677
D&C Physical Therapy	和田 3-60-10	3311-8888
安達動物病院	和田 3-60-11	3311-5678

動物通信 歯の病気と管理 ～健康な歯を維持するために～

令和4年度版

令和4年12月発行

発行・監修

杉並区杉並保健所生活衛生課

〒167-0051 杉並区荻窪5-20-1 電話 03(3391)1991

☆杉並区のホームページでご覧になれます

<https://www.city.suginami.tokyo.jp>

登録印刷物番号

04-0071



R40

古紙配合率40%再生紙